

岐阜清流病院

名和隆英 理事長

集 特 頭 卷

地域の医療を、人々を守る

今年4月、岐阜市に新たな病院が誕生した。
売却された岐阜中央病院を基に、
生まれたのは「医療法人清光会 岐阜清流病院」。
中核拠点病院と連携する地域医療の復活に力を注いだ
二人のドクターに対談してもらった。

岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター

小倉真治 センター長





Profile
医療法人清光会
岐阜清流病院
名和隆英理事長

1978年生まれ。岐阜大学医学部卒業。岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センターを経て同院循環器内科で臨床講師を勤めながら、父から受け継いだ医療法人清光会を継承。昨年、民事再生法の適用申請をした岐阜中央病院を引き継ぎ、今年4月から医療法人清光会 岐阜清流病院を立ち上げる

地域医療の隙間を空けてはいけぬ。そんな使命感から、岐阜清流病院として再生しました。

——まずはお二人の関係について、お話しいただけますか。

小倉真治センター長（以下小倉）

2003年に岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学分野教授に就任しました。名和理事長はその時の教え子の一人ですね。



名和理事長の専門は循環器内科。岐阜清流病院が医師不足に悩むなか、経営だけでなく、医師としても病院を支えた

名和隆英理事長（以下名和）岐阜大学在学中、救急医療の名医が附属病院にいらつしゃると話題になりました。その後、高次救命治療センターに入ると、チームの一員として小倉先生には医療のいろはを教えていただき、現在もお世話になっています。

地域医療の隙間を空けてはならないと奔走

——岐阜清流病院を立ち上げた経緯は？

名和 前身となる岐阜中央病院は私が週に一度、非常勤医師として出向していた病院でした。当時はリハビリテーションに力を入れていて、ドクターも多く、非常に活気のある病

院だったんです。しかし、さまざまな理由から徐々にドクターが減り、合わせて患者も減っていききました。熱意をもって医療現場にいたスタッフのモチベーションも下がっていききます。病院が活気を失っていつていけると、肌で感じていました。私は岐阜大学医学部附属病院に勤めながら、瑞穂市の医療法人清光会の理事長でもあり

ました。岐阜中央病院が活気を失っていき過程で、徐々にかなりつけ医の範疇を超える高度な医療が必要になった患者を、なかなか受け入れてもらえなくなつたように感じていたんです。周囲の開業医からも、同じような声が聞こえていました。岐阜

市や西濃地域の医療において、岐阜中央病院が担ってきた役割は重要で、地域医療の隙間を空けてはいけぬ。そんな使命感から、岐阜中央病院を引き継ぎ、岐阜清流病院として再生しました。

小倉 これは非常にリスクがある決断です。その話を聞いた当初、私は名和先生を止めました。決して簡単な仕事ではないと思っていたからです。しかし、地域医療への熱い思いと固い決意を聞いて、背中を押しました。名和 大変な仕事というのは理解していましたが、岐阜清流病院の立ち上げが自分の人生のターニングポイントだというのは感じていました。で

すが、リスクがあるというより、チャンスだと思えましたね。義を見てせざるは勇なきなり。地域医療の担い手として、自分の役割を果たし、チャレンジしていく機会だと考えてました。

岐阜大学の協力で人材不足を解消家族のように患者に向き合う病院

——岐阜大学医学部附属病院のサポートは？

名和 一番深刻だったのは人材不足です。医師も、看護師も、ほかのスタッフも圧倒的に足りない。そうした点を助けていただきました。小倉 たった2人の医師で内科を受け持っている時期があったと聞きま

す。そこで、岐阜大学医学部附属病院から何人かに岐阜清流病院を手伝ってもらいました。

名和 岐阜大学のサポートもあって、医師不足で患者を診察できない状態から脱せました。しかし、そのまま甘んじている訳にもいきません。女性スタッフに意見を求め、託児所を整備するなど、働きやすい環境への改善にも手を付けました。そうした努力が実って現在、内科医は3倍に増え、医療を提供できる体制が整いつつあります。

小倉 派遣した側としても、非常に有意義な経験を積ませてもらいました。この数年間に大学病院そのもの

も職員の意識が変わってきています。それまでは、奉仕者としての思いやりやホスピタリティーに欠けている印象がありました。最高の患者サービスを提供する病院へと変わりつつあります。その上で、ありつた心の遣いで家族のように患者と向き合う岐阜清流病院の姿にも感化され、岐阜大学医学部附属病院の雰囲気もさらに良くなると感じます。

目指すはスーパーマーケット 気軽に相談できる病院に

——今後、岐阜清流病院が担っていく役割は？

小倉 高齢化が進んでいる日本では、

リハビリテーションに強い病院はありがたい。岐阜清流病院はそんな特長を持った病院ですね。

名和 岐阜中央病院が培ってきた長所は、しっかり受け継いでいきます。その上で、高齢者に限らず岐阜や西濃地域の医療を支える役割を担ってまいります。

小倉 私が立ち上げた高次救命治療センターをはじめ、岐阜大学医学部附属病院には、重篤な病や怪我に対応できる医師や先進的な医療機器がそろい、高度な医療を提供できる体制が整っています。しかし、地域の医院や診療所に対応できない患者すべてを受け入れるのは非常に困難です。

患者の容態に応じて、代わりに受け入れてくれる病院が不可欠。そんな役割を岐阜清流病院も担ってほしいと期待しています。

名和 私が目指すのはデパートではなく、スーパーマーケット。デパートほど多くのものは置いていない。しかし、地域の人にとってデパートより身近な存在です。患者にとっても、地域の開業医にとっても、困った時に気軽に相談できるような病院でありたいと考えています。

小倉 岐阜の医療を担っていく思いは私も同じです。これからも、協力し合って地域の人々の健康を守っていきましょ。



岐阜清流病院
岐阜市川部3-25
TEL058-239-8111(代)

患者の容態に応じて受け入れてくれる病院が不可欠。そんな役割を担ってくださると期待しています。



Profile
岐阜大学医学部附属病院
高次救命治療センター

小倉真治センター長

1959年生まれ。岐阜大学医学部卒業。香川医科大学附属病院救急部助教授を経て、2003年に岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学分野教授に就任。翌年から岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター長、2014年から今年3月まで岐阜大学医学部附属病院院長を務めた